

令和6年度 美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議 会議録

日 時	令和7年1月31日（金） 10時～12時
場 所	県庁別館8階 第1会議室AB
出席者氏名	<p>○ 委員</p> <p>内海 佐和子（静岡県立大学経営情報学部 教授） 川島 康明（一般財団法人静岡経済研究所 理事 研究部長） 下川 澄雄（日本大学理工学部交通システム工学科 教授） 原田 賢治（国立大学法人静岡大学防災総合センター 准教授） 日詰 一幸（国立大学法人静岡大学 学長）【委員長】 平井 一之（一般社団法人静岡県環境資源協会 会長） 山内 秀彦（特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 代表理事） （敬称略、五十音順）</p> <p>その他、行政委員（庁内関係課長）13名 高梨交通基盤部理事、政策管理局建設政策課（事務局）</p>
議 題	<p>1 令和6年度の取組評価について</p> <p>2 インフラビジョンの改定（骨子案）について</p>
配布資料	<p>1 次第、名簿、座席表</p> <p>2 令和6年度の取組評価（資料1）</p> <p>3 インフラビジョンの改定（骨子案）（資料2）</p>

議 事 概 要

議題

<令和6年度の取組評価>

- 伊豆市の津波複合避難施設の取組を県内に横展開することを期待する。
- 道路包括管理は地域と連携・協働ができるような仕組みを検討されたい。
- 八潮市の事故を見るとインフラの老朽化が不安。地震対策と並び喫緊の課題である。
- フェリーや大型クルーズ船は着岸後、地域へ経済効果が現れるよう、インバウンド効果を県民の目に見える形で連携していくと良い。
- 橋梁点検を実施しているが、能登半島地震では橋は残っていても周辺の道路が損壊している状況も多く見受けられた。ネットワークとしての道路機能が確保できるよう対策を進められたい。
- 環境と経済と社会の連携によるウェルビーイングが重要である。
- 県有建築物については、NearlyZEBを目指す方向性を次期計画で示していけると良い。
- アクセス道路と高規格道路が一体的に機能していることが重要である。

<インフラビジョンの改定（骨子案）>

- DXと並んでGXも重要である。県の整備するインフラでも避けて通れない。
- 改定の趣旨として長寿命化、施設の使いやすさ、老朽化の中での管理についてしっかり触れると良い。
- 目標を設定してバックキャストしていくのも良いが、現在のパフォーマンスを見たとえで、将来的にどういうパフォーマンスを発揮すべきか検討していく視点も必要である。
- 県内のエリアごとに課題は異なるはずである。そのため、提案された施策を各エリアにどう戦術として落とし込むかを検討されたい。
- 国土形成計画では10万人規模の地域生活圏が謳われている。地域を分析し、どのように地域を盛り立てていくのか考えていってほしい。
- 人口減少は、計画策定の大前提となる。
- 過疎地域の復旧復興の方向も考えていく必要がある。自立して復興できるかという視点も必要となる。
- 緩やかなコンパクトシティ化は、被災後には進めていく必要がある。
- Well-beingは、最近よく使われるが、まだ県民に浸透していない。大きな概念はかみ砕いて説明した方が良い。
- 担い手確保の取組は、やっただけではなく、参加者アンケート等を踏まえて、密度を濃く良い方向へ展開し、具体的に担い手が確保できる方策に向いていってほしい。